

料金別納郵便

今を継ぐ 越中瀬戸焼 かなくれ会 陶展Ⅱ

令和2年9月11日(金)~18日(金) 会期中無休

開廊時間：午前11時~午後7時(最終日18日は午後5時まで)

出品作家・在廊日	釋永 由紀夫	9月11日(金)~14日(月)
	加藤 聡明	9月15日(火)~18日(金)
	吉野 香岳	9月15日(火)~18日(金)
	北村 風巳	9月11日(金)~14日(月)
	山田 智子	9月11日(金)~14日(月)

越中瀬戸焼は、富山を代表する430年以上の歴史のあるやきものです。天正、文禄年間、前田家の保護を受け、尾張の瀬戸焼の陶工たちが、大窯や登窯を築いて施釉陶器を焼いたことに始まります。立山山麓からは、今もいろんな種類の陶土が産出しています。特に白土は粒子が細かく耐火度があるので、高温の窯で焼くと、仕上がりが細やかで繊細な雰囲気になります。現在立山町には5窯が稼働していますが、その5人の陶芸家により平成23年「かなくれ会」が発足しました。「かなくれ」とは、土地の言葉で「陶片」を指します。平成25年には、富山県指定伝統工芸品の第一号に選定されました。

「かなくれ会」の陶芸家たちは、自然豊かな立山町の環境の中で、暮らしに根付いた器や茶陶を制作しています。その作品からは、作り手の人間性や生き方が伝わってきます。今展の意義は、流行をひたすら追うのではなく、富山の地方窯から「やきもの本来の在るべき姿を問う」という処にあります。

森 孝一 (美術評論家・日本陶磁協会 常任理事)

柿付ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

公式Instagram

160-0022 東京都新宿区新宿 3-37-11 安与ビルB2階

03-3352-5118 gallery@kakiden.com

<https://www.kakiden.com/gallery/>



新型コロナウイルスの影響で、店舗を閉め、オンライン展示とさせて頂く可能性があります。
お手間で恐縮ですが、弊館ホームページにて、最新情報をご確認頂ければ幸いです。



昭和 45 年 富山県立山町に生まれる
平成 4 年 京都精華大学 造形学科
陶芸部 卒業
平成 5 年 滋賀県立 信楽「陶芸の森」
研修生
平成 6 年 京都市工業窯業試験所
研修生
平成 7 年 富山県に戻り家業を
手伝う
平成 22 年 三代目香岳襲名

吉野 香岳

Yoshino Kouga

—千寿窯—



昭和 36 年 富山県立山町に生まれる
昭和 53 年 石川県の九谷焼東製陶所
にて東邦昭のもとで
修行に入る
昭和 60 年 富山に帰り、家業の四郎
八窯にて作陶に入る
昭和 63 年 自ら、登り窯を築窯
平成 7 年 いってこい窯を築窯
平成 16 年 越中陶の里「陶農館」の
講師となる

加藤 聡明

Katou Toshiaki

—四郎八窯—



北村 風巳

Kitamura Fumi

—枯芒ノ窯—

昭和 52 年 富山県富山市に生まれる
平成 12 年 越中陶の里「陶農館」にて
作陶開始
平成 14 年 江戸時代の越中瀬戸焼に
感銘を受ける
平成 18 年 唐津焼 中里太郎右衛門窯
にて修行
平成 22 年 立山町に穴窯を築窯
平成 23 年 枯芒ノ窯と命名し、
初窯を焚く



釋永 由紀夫

Shakunaga Yukio

—庄楽窯—

昭和 29 年 富山県立山町に生まれる
昭和 50 年 釋永庄次郎より
庄楽窯を継承
昭和 51 年 備前・金重素山氏に
師事する
昭和 54 年～ 韓国の利川窯・閒慶窯
・清州窯にて作陶
平成 8 年 スティーブ・ジョブズ氏
と出会い、以後、制作依
頼を受ける



山田 智子

Yamada Satoko

昭和 53 年 東京都に生まれる
平成 18 年 京都府立陶工高等技術専
門学校 成形科 修了
清水保孝氏に師事
第 36 回 日本伝統工芸展
入選
平成 20 年 日本デザイン専門学校
非常勤助手として勤務
平成 24 年 立山町「陶農館」に勤務
令和 2 年 立山町に工房を持つ

